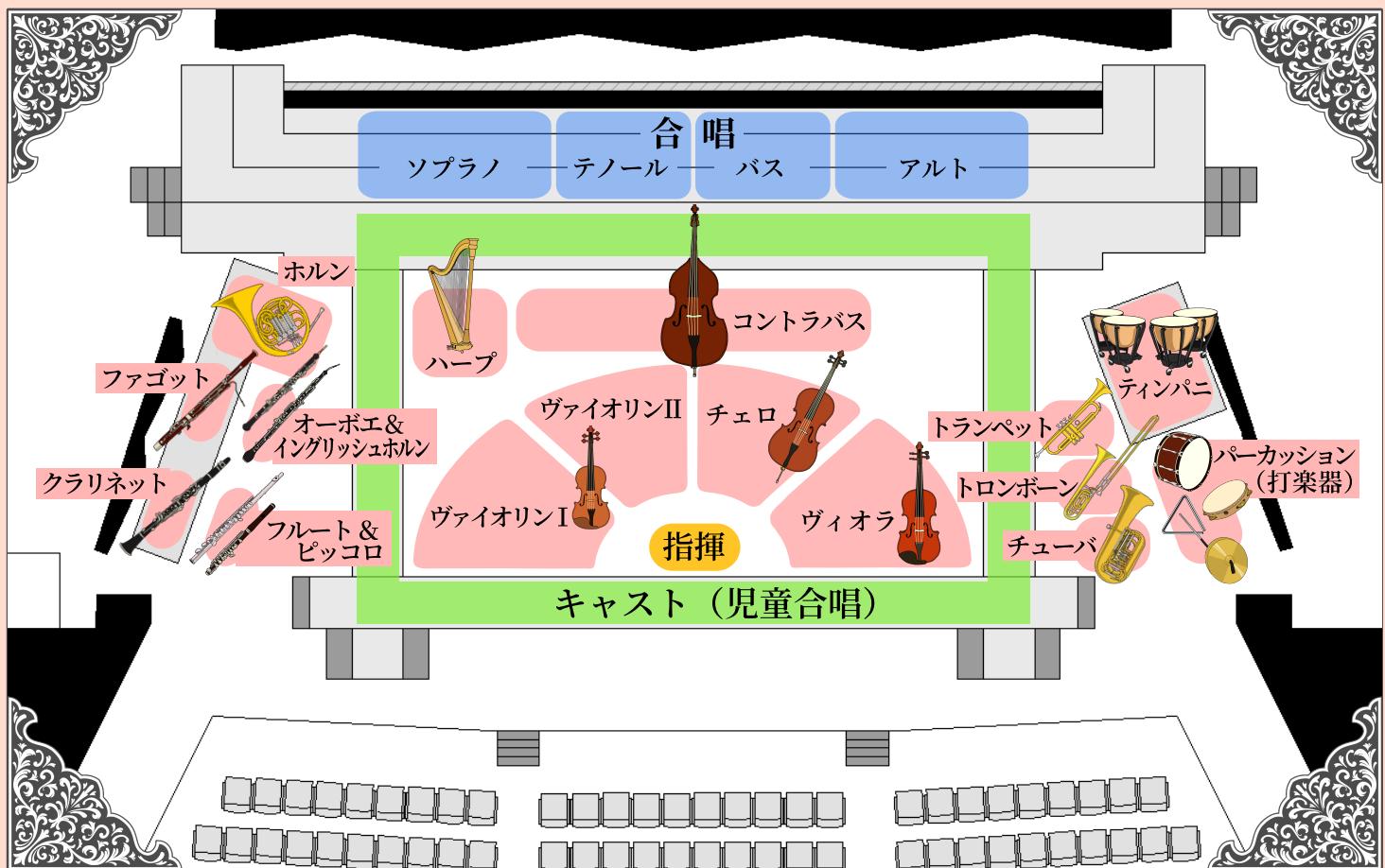


# 舞台図



## オーケストラエリア（春日井市交響楽団）

舞台中央に弦楽器・ハープ、上手に金管楽器・打楽器、下手に木管楽器・ホルンを配置しています。

\*チューバは歌劇『ニュルンベルクのマイスター・ジンガー』前奏曲のみの出演です。

## キャスト・児童合唱エリア（各キャスト、春日井児童合唱団）

キャスト・児童合唱は演出により随時登場します。

## 合唱エリア（春日井カルメン合唱団）

上手側からアルト（女声）、バス（男声）、テノール（男声）、ソプラノ（女声）の順に並んでいます。

# セミオペラ形式について

『セミオペラ』とは、通常のオペラ上演とは違い演奏会形式ですが、ソリストが衣装・動きを付けて行うものです。通常のオペラでは、オーケストラは『オーケストラピット』と言われる舞台前約2m低い位置に配置されますが、今回は舞台上で演奏します。



歌劇場の  
オーケストラピット

# 登場人物相関図



## キャスト

♦ カルメン	河村 典子 (メゾソプラノ)
♠ ホセ	山下 玲皇奈 (テノール)
♥ ミカエラ	真井 聖美 (ソプラノ)
♣ エスカミーリョ	松下 伸也 (バリトン)
♥ フラスキータ	奥村 育子 (ソプラノ)
♥ メルセデス	上野 朋子 (メゾソプラノ)
♣ ダンカイロ	西元 佑 (バリトン)
♣ レメンダード	木村 一輝 (テノール)
♣ スニガ	加藤 武志 (バリトン)



# 第1幕聴きどころ

\*数字は演奏順



## 【1】前奏曲

誰もが聞いたことのある言わずもがなの有名曲ですが、実はオペラ「カルメン」の有名な主題がちりばめられています。冒頭のテーマは4幕の闘牛士の入場のシーン「合唱と行進」ですし、中間部には、「トレアドール...」と歌われる「闘牛士の歌」のメロディが現れます。オペラ「カルメン」の前奏曲が「カルメン組曲」と違うのは、曲の最後に、弦楽器のトレモロから始まる死（運命）のテーマと呼ばれる不吉な主題が現れるところです。このテーマは、オペラの中でたびたび登場する重要なものです。

## 【2】子供たちの合唱

曲は衛兵の交替を告げるラッパの合図から始まります。

まず、舞台裏のトランペット（春日井市交響楽団の演奏会では、どこで演奏するでしょう？）が鳴って、  
その後舞台上のトランペットが続きます。



2本のピッコロの軽やかなメロディに合わせて、子供たちが歌いながら登場します。

## 【3】女工たちの合唱

「まだ来ないぞ あのカルメンシータ！」若者たちが、女工のなかでも1番人気のあるカルメンが出てくるのを待ちわびて歌います。そこへカルメンがやっと登場します。

## 【4】ハバネラ

チェロの演奏するハバネラのリズムにのってカルメン登場。

「恋は気まま・撻なんかない」という自由奔放な彼女の生きざまを歌います。

ちなみに「ハバネラ」とは元々キューバの民俗舞曲で、フランスのコントルダンスが源流。  
その後ハバネラのリズムが船乗りによってスペインに輸入され、非常に人気の舞曲となり  
「スペイン舞曲」として定着していったそうです。

## 【5】シーン

女工たちがハバネラのフレーズを口ずさんだところで、休憩が終わる鐘が鳴ります。

## 【6】2重唱

ホセの幼馴染みミカエラ登場です。「母からの手紙とキス」をホセに届けます。

まずはミカエラが歌い、そのあとホセが応えます。2人で故郷を思い出す美しい二重唱です。

## 【7】喧嘩の合唱

悲鳴を表すヴァイオリンのトレモロとともに、女工の喧嘩が始まります。

カルメン組（アルト）とマニュエリタ組（ソプラノ）が激しくののしりあい、  
早口でホセの上官スニガに捲し立てます。

金管楽器の猛々しいファンファーレが聞きどころです。



## 【8】セディギリヤ

カルメンがホセを誘惑します。ホセが次第にカルメンに落ちていく様子が表現されます。

カルメンが歌う旋律がフルート⇒ヴァイオリン⇒チェロと次々と楽器と形を変えて演奏されるのは、心変わりの様子なのでしょうか…。

何度も葛藤を繰り返していたホセが遂にカルメンに心奪われる瞬間を感じてください。



## 【9】終曲

弦楽器が女工たちの喧嘩のメロディを演奏した後、カルメンがハバネラの一節をくちずさみ、  
ホセを突き飛ばし、カルメンは逃げ去ります。

# 第2幕聴きどころ

\*数字は演奏順

## 【1】間奏曲

弦楽器のピチカートとスネアドラムが刻むリズムの上で、  
2幕でホセが独唱する「アルカラの竜騎兵」をファゴットが演奏します。  
そのメロディを他の木管楽器が代わる代わる繋げていきます。



## 【2】ジプシーの歌

ヴィオラ・チェロ・ハープが刻むリズムに乗って、  
カルメンとジプシーたちの歌と踊りがはじまります。  
楽器の数と音量を増やしながらどんどんテンポアップし、盛り上がります。

## 【3&4】闘牛士の歌

舞台裏から闘牛士の英雄、エスカミーリョをたたえる声が聞こえたあと、  
オーケストラが前奏を奏で、エスカミーリョが自分について誇らしげに歌います。  
後半には前奏曲でも流れた「トレアドール」をみんなで歌います。

## 【6】5重唱

密輸団たちが「仕事（詐欺や盗み）をするときは女がいなきゃ！」とコミカルに歌います。  
早いテンポの5人の掛け合いをお楽しみください。

## 【7】アルカラの竜騎兵

ホセが「アルカラの竜騎兵」のメロディを歌いながら登場します。



## 【8】カスタネットの歌

カルメンがカスタネットを叩きながら、ホセとの再会を喜ぶ歌です。  
打楽器奏者がカスタネットを担当する場合もありますが、今回はカルメン自身が演奏します。  
途中、帰營のラッパ（トランペット）が鳴り出し、ホセが兵舎へ戻ろうとすると、  
突然ヴァイオリンのスケール（音階）が始まり、音楽が一変します。  
その後イングリッシュ・ホルンによる死（運命）のテーマが流れ出し、ホセのアリアにつながります。

## 【8】花の歌

別名「ホセのアリア」。カルメンが投げつけた花を、獄中で愛の証として大切に取っていたと歌います。  
テノールの高音を堪能できる、ホセのいちばんの見せ場です。

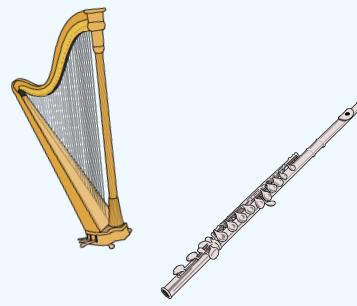
## 【9】終曲

「世界で一番素敵なことは自由」ホセがカルメンとともに生きることを決意し軍服を脱ぎます。  
ホセが仲間になった喜びを合唱が歌い上げます。



# 第3幕聴きどころ

\*数字は演奏順



## 【1】間奏曲

ハープとフルートの美しいメロディで有名な曲。  
木管楽器が次々とメロディを重ねていきます。

## 【2】カルタの歌

ジプシーたちがカードで未来を占います。カルメンには「死」のカードがでます。  
フラスキータ&メルセデスの明るい未来を思わせるフレーズとカルメンの死のテーマの対比が印象的です。

## 【3】ミカエラのアリア

ホルンの美しいソロの前奏のあと「どんなことがあってもホセを連れ帰る」とミカエラがホセへの  
「けなげな恋心」を歌います。



## 【4】決闘の2重唱

ホセとエスカミーリョ、ライバル同士のぶつかり合いです。  
堂々と歌い上げるエスカミーリョと嫉妬に狂うホセの戦いの行方は…。



## 【5】終曲

エスカミーリョは、カルメンを闘牛に誘って去っていきます。  
カルメンの気持ちがエスカミーリョにあることを思わせるように、  
チェロのアンサンブルで「トレアドール」のメロディが流れます。  
ミカエラがホセと一緒に戻ろうと「手紙の歌」のメロディで歌うと、  
オーケストラによる壮大な死（運命）のテーマが現れます。  
そして再び軽やかな「トレアドール」が流れます。  
まるでホセとエスカミーリョ、2人の未来を暗示するかのように終幕します。

# 第4幕聴きどころ

\*数字は演奏順



## 【1】間奏曲「アラゴネーズ」

スペイン色豊かな曲。打楽器の活気あるリズムに合わせてオーボエがメロディを奏でます。  
その後タンバリンのリズムに乗ってピッコロとクラリネットが舞踏的なメロディが続きます。

## 【2】合唱と行進

さまざまな闘牛士が、闘牛場へ次々と行進してきます。子供・群衆の歓声にどうぞ加わってください！  
「前奏曲」のメロディ、「トレアドール」などの華やかな音楽が終わった後、フルートのおだやかな  
メロディが流れフラスキータとメルセデスがカルメンに忠告をしに来ます。  
死（運命）のテーマが流れホセがあらわれます。

## 【3】2重唱と終曲

カルメンとホセのいわゆる「修羅場」シーンです。舞台裏の金管楽器のファンファーレと合唱は闘牛場でのエ  
スカミーリョをたたえる歓声です。ホセの叫びとともに舞台上のオーケストラが奏でる死（運命）のテーマで  
しめくくります。